

泌尿器科

1、2006年度の目標及び方針

泌尿器科は副腎、腎臓、腎盂尿管、膀胱、前立腺、尿道、精巣など多くの臓器を扱うとともに、子供から老人までこれらの臓器に起こる多くの疾患(腫瘍、結石、感染症、排尿障害、ED、不妊症、尿流の障害(腎後性腎不全)など)を扱う診療科です。なかでも前立腺癌をはじめとして急速に増えている尿路腫瘍や高齢化における排尿の問題の専門集団として社会的ニーズが高まっている診療科です。こうした中で、房総地域の基幹病院としての機能だけではなく、地域を越えた多くの医療機関からご紹介いただけるような診療科に発展しつつあります。県内唯一である軟性膀胱鏡を用いた各種技術や安定した手術成績、治療方針の標準化をはかる努力、新技術の導入など高い質を追求する姿勢が評価されているものと思われます。引き続きこうした姿勢を貫きさらなる質の向上を目指して尿路腫瘍の診断治療、鏡視下手術、排尿障害に注力していきます。当科は日本泌尿器科学会指導認定機関であり、泌尿器科専門医を目指す医師の卒後研修に力を入れるとともに、初期研修を始める医師や関連領域の診療科に対しても講義などを通じて教育に関わっています。

2、2005年度評価

2005年は6名の常勤病棟スタッフで診療にあたりました。

限局性前立腺癌の治療として永久挿入密封小線源治療の導入を行い治療開始するに至りました。ウロギネ外来を4月より開設し、順調に患者数が伸びてきています。ウロギネの分野でも婦人科と協力して性器脱の新しい術式を導入しました。

腹腔鏡手術では加納外科主任部長に指導いただきながら安全性を重視しながら技術の向上に努めており、手術件数は少ないながら昨年に引き続き合併症発生例は0件で開腹へ移行したのも0件と安全に手術が行われています。主な手術や検査の説明文書を改訂し充実させ、インターネットでの公開の準備も行いました。

3、スタッフ紹介

泌尿器科は2006年3月現在、顧問で外来専任の西村医師を含む7名のスタッフで構成されており(うち泌尿器科専門医4名)、毎週月曜日に原クリニックより久慈医師の応援を仰いでいます。また、第3または第4木曜日に新島東京大学名誉教授の外来が開設されています。

太田智則(部長)：1992年筑波大学卒、医学博士、日本泌尿器科学会専門医・指導医、主治医権あり。

筑波大学付属病院、日立総合病院、国立がんセンター研究所、都立駒込病院などを経て2001年1月より亀田総合病院へ。2003年7月より現職。

所属学会：日本泌尿器科学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本 Endourology and ESWL 学会、日本女性骨盤底医学会、日本排尿機能学会、国際禁制学会、国際ウロギネコロジー学会など。千葉泌尿器医療・介護研究会世話人、千葉男性性機能障害研究会幹事

志賀直樹(医長)：1993年山梨医科大学(現山梨大学)卒、日本泌尿器科学会専門医・指導医、主治医権あり。山梨医科大学付属病院、山梨赤十字病院、みつわ台総合病院、市川大門町立病院、大月市立病院、亀田総合病院(医長)、大月市立病院を経て2005年4月より現職。

所属学会：日本泌尿器科学会、日本透析学会、日本 Endourology and ESWL 学会
 間庭章光(医員)：1997 年山梨医科大学(現山梨大学)卒、日本泌尿器科学会専門医、日本透析学会認定
 医。山梨医科大学付属病院、山梨赤十字病院を経て 2003 年 9 月より亀田総合病院へ。

所属学会：日本泌尿器科学会、日本 Endourology and ESWL 学会、日本透析学会
 直井牧人(医員)：2000 年筑波大学卒、筑波大学付属病院、筑波メディカルセンター、旭中央病院、
 筑波大学付属病院を経て、2005 年 4 月より亀田総合病院へ。

所属学会：日本泌尿器科学会、日本 Endourology and ESWL 学会
 鈴木 敦(医員)：2002 年杏林大学卒、杏林大学付属病院を経て 2002 年 7 月より亀田総合病院へ。

所属学会：日本泌尿器科学会、日本 Endourology and ESWL 学会
 犬塚秀康(医員)：2003 年山梨医科大学(現山梨大学)卒、山梨大学付属病院を経て 2005 年 4 月より亀
 田総合病院へ。

所属学会：日本泌尿器科学会、日本透析学会
 新島端夫(顧問)：東京大学名誉教授
 西村洋司(顧問)：元三井記念病院部長
 久慈弘士(非常勤)：元亀田総合病院医長、現原クリニック

4. 年間活動内容と実績など

昨年同様開腹手術が増えています。2005 年は特に腎臓手術が増えています。また、前立腺全摘にお
 ける術中の直腸損傷は昨年同様ありませんでした。当科では前立腺生検や尿管ステント挿入・交換、逆
 行性腎盂造影、順行性腎盂造影、腎瘻造設などは透視下無麻酔で行っているため、手術件数としてカ
 ウントしていません。ちなみに尿管ステントの使用量は国内トップクラスです。また軟性鏡を用いた
 逆行性腎盂造影や尿管ステント挿入・交換などは外来でも行っており、この操作を行っている施設は国
 内でも稀で、千葉県内では唯一です。

・主な手術実績

術式	主な対象疾患	2001	2002	2003	2004	2005
腎摘出術	腎臓癌	12	8	15	14	14
腹腔鏡下腎摘出術	腎臓癌	0	2	2	6	2
腎部分切除術	腎臓癌	2	1	5	0	9
腎尿管全摘術	腎盂尿管癌	9	3	10	7	11
膀胱全摘	膀胱癌	4	5	1	6	3
前立腺全摘	前立腺癌	11	10	32	30	29
副腎摘出術	副腎腫瘍	1	2	2	3	2
腹腔鏡下副腎摘出術	副腎腫瘍	0	0	1	0	0
経尿道的膀胱腫瘍切除術	膀胱癌	75	74	89	88	93
経尿道的前立腺切除術	前立腺肥大症	34	27	29	43	51
経皮的腎結石碎石術	腎結石	3	1	2	3	0
経尿道的尿管結石碎石術	尿管結石	39	36	27	27	22
体外衝撃波結石破砕術	腎結石、尿管結石	193	124	97	95	139
手術室利用総数			569	522	524	620

* 前立腺生検、逆行性尿路造影、尿管ステント操作、腎瘻造設は含みません。

5. 教育・勉強会関係など

月から金の毎朝全員で回診を行っています。また火・金の夕方に入院症例の検討を行い、夕回診も行

っています。木曜日は外来のフィルムカンファと翌週の手術症例の検討を行っています。第3火曜日に放射線科と症例検討を行っています。毎週火曜日に抄読会・勉強会を行っています。

1)後期研修について

日本泌尿器科学会の専門医取得にとどまらず、泌尿器科の知識や検査・処置・手術の習得を目指します。研修年次によらず個人の積極性や実力に応じ step up した研修機会を考慮しています。

2)学術関係(学会・研究会発表)

松井隆史 他：T1G3 症例に対する second TUR の検討第 93 回日本泌尿器科学会総会 2005/4/12-16

寺本咲子 他：限局性前立腺癌の治療選択に関する患者の意識度調査第 93 回日本泌尿器科学会総会 2005/4/12-16

直井牧人 他：一過性両側副腎腫大の一例 第 70 回日本泌尿器科学会東部総会 2005/9/28-30

鈴木 敦 他：軟性膀胱鏡を用いた経皮的腎碎石術(PNL)の経験第 19 回日本 Endourology and ESWL 学会 2005/11/9-11

志賀直樹：前立腺肥大症に対し被膜下摘除術を施行した血液透析患者の 1 例第 50 回日本透析医学会 学術集会・総会 2006/6/24-26

3)講演

太田智則：メディアセミナー、医療におけるコラボレーション：進化する女性医療 2004/4/19

太田智則：アステラス製薬、前立腺肥大症 2005/11/28

4)論文発表

太田智則：中核病院における電子化医療と地域連携の役割泌尿器外科 2005,18,483-484

5)その他

「尿もれ電話相談」5月31日、6月7日

文責：太田智則